



に し し ょ う

西小だより



「強く 正しく 健やかに」 令和6年 5月24日(金) 第3号 校長 都外川 潔

HP はこちら→

あいさつとは…

西大村小の子どもたちには、進んであいさつができる児童が多く、うれしく思っています。先日、地域の方からも「子どもたちがよくあいさつしてくれてうれしいです。」とご連絡をいただきました。

ただ、ときにはこちらからあいさつをしても、あいさつが返ってこないこともあります。

自主的に朝のあいさつ運動をしている子どもたちがいますが、その中の一人の子が困った顔で相談に来ました。「校長先生、あいさつをしてもあいさつを返さない人があいさつをするようになるにはどうしたらいいと思いますか？」この問いに対して、私はこう答えました。「そうですね…。以前は私も、あいさつをしたらあいさつを返してほしいと思っていましたが、今は、あいさつを返してもらうためにあいさつをしているのではなく、こちらからあいさつをすることが大切だと思っています。」

ただ、こう答えたものの、やっぱり、あいさつをしても何も反応がないとさびしい気持ちになるのは十分わかります。あいさつの声は返ってこなくても、ぺこりと会釈してくれる子どもたくさんいます。それだけでも気持ちは十分伝わるものです。あいさつはコミュニケーションの第一歩。みんなでころがけていきたいですね。



あいさつ運動…ありがとうございます！

に し お お む ら し ょ う け ん き ゅ う

西大村小の研究について

私たちは、全ての教育活動を大切にしていますが、その中でも、ここには特に力を入れていこうと、研究の主題を次のように決めています。

確かな学力を身に付け、豊かな表現ができる児童の育成
～国語科を中心とした読解力向上を図る授業改善を通して～

長崎県教育委員会では、「読解力」を次のように定義しています。
「読解力」とは、教科等の枠を越えて、各教科等の土台となる能力

→文章を正確に、速く理解できる。

→文章と図、表、グラフ等の関係を捉えたり、知識をもとに推論したりすることができる。

このことを受けて、本校では、まず国語科を中心として読解力を高め、その力を各教科等にいかしていただけるように、日々の授業で次のような読解力育成の視点を意識するようにしています。

- ・教師の言葉が、意図どおりに児童に伝わるよう工夫する。(わかりやすく伝える。)
- ・各学年の段階に応じて、読解力の基礎となる語彙力や漢字力、構文力等を高める工夫をする。
- ・ねらいに即した「書く活動」を設定する。など

